カトリック福岡教区報

宮原良治司教認可
発行所　福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　下町豊重
TEL　092-522-4059
FAX　092-523-2152
振替口座　01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価　一部60円

福岡教区信徒養成部　聖書講座開講中
生活の中でみことばを活かす

「毎日、少なくとも5分、福音書を読んでみてください。生活がどう変化するかが分かるでしょう。」教皇フランシスコは7月15日、ツイッターでこう呼びかけた。信徒がみ言葉を生活の中で生きることができるように、との思いで始められた今年度の聖書講座（教区信徒養成部聖書講座部門主催）。7月8日（日）に2018年度第2回聖書講座が大名町教会で開催され、約60人の信徒と修道者が集った。

聖書講座に参加する信者ら

2018年度「聖書講座」は、テーマを「聖書と私たち～生活の中でみことばを活かす」として5月にスタート。隔月第2日曜の14時から大名町教会1階講堂で行われている。第1回は「聖書と私たち」、第2回は「奇跡、特に病と癒しについて」について講師の森山信三神父が様々な資料を用い、丁寧に、そして熱意をもって解説した。

以前も聖書講座が開かれていたが、その時は「講義」の色が強かった。「講義ではなく、信者さんの生活の中でみことばが生きるように、また『回心』すなわち単に『悔い改め』ではなく、人の苦しみや痛みの分かるところに視点、視座を移すようにとの観点で講座を始めました」と森山師は語る。「2000年前の聖書著者の体験・記憶と現代の私たちの体験・記憶がどこでつながるか」を振り返るヒントが盛り込まれた内容となっている。

第2回「奇跡、特に病と癒しについて」に参加した信徒は次のように感想を述べる。

「イエスの活動と福音をより深く味わうことができました。私自身が癒された体験を振り返る時にもなりました。私にもできる〈いやしの奉仕〉を日々の歩みの中で大切にしたいです。」

6月の司祭研修会でも教会生活における聖書・みことばの大切さが確認された（教区報7月号にて既報）が、司牧面で課題が残る。聖書講座部門担当でもある森山師は次のように現状を振り返る。「信徒が聖書に親しむためにはミサだけでは足りないと思います。各教会にみ言葉を分かち合うグループがいくつもあることが理想だと思いますし、必要だと思います。同時に分かち合いをリードできる信徒、いわゆるファシリテーターを養成することが大切だと思います。」

次回は9月9日（4面お知らせ参照）。内容は未定だがお楽しみに…とのことだ。

8・9月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう

【世界共通】（8月）家庭は宝物
【福音宣教】（9月）アフリカの若者たち
【日本の教会】
（8月）世界平和への責任
（9月）すべての被造物の尊重

平成30年7月豪雨災害支援

6月28日から7月8日頃にかけて、西日本を中心に広い範囲を襲った集中豪雨により、特に広島教区（広島県、山口県、島根県、岡山県、鳥取県を管轄）と高松教区（香川県、愛媛県、徳島県、高知県を管轄）が大きな被害を受けました。被災状況や支援状況については各教区のホームページなどを参照ください。広島教区では「被災者のための祈り」も発表されています。

今回の災害のための支援金、募金はカリタスジャパンや広島教区で受け付けています。各小教区に文書をお送りしていますので、お祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

＜学生ボランティア交通費補助について＞

福岡教区災害被災者支援室は、今回の災害支援ボランティアに参加する学生（高校生以上）の交通費を補助することを決定しました。原則、交通費の半額程度を補助いたします。交通費補助を希望される方は支援室の青木悟師までメールでご連絡ください。

メール：cdf-kouhou@nifty.com

鹿児島教区司教に中野裕明師 郡山健次郎司教引退

教皇フランシスコは7月7日、鹿児島教区の郡山健次郎司教の退任願いを受理し、後任に同教区のフランシスコ・ザビエル中野裕明神父（67歳）を任命した。中野被選司教は福岡サン・スルピス大神学院を卒業して1978年司祭叙階。2011年より日本カトリック神学院養成者、今年2月より同神学院々長を務めていた。司教叙階式は10月8日（月・祝）13時から、鹿児島市の宝山ホールにて行われる。

教皇、幸田司教の退任願いを受理

教皇フランシスコは、6月23日、東京教区のヤコブ幸田和生補佐司教が提出していた、補佐司教の職務からの退任願いを受理した。

幸田司教は、2004年11月に東京教区補佐司教に任命され、翌05年2月に司教に叙階。ことし4月1日付で、東北震災復興支援専属として、仙台教区に派遣されている。

9月号は休刊です。

「日本カトリック平和旬間」教区内賛同企画

＜福岡地区＞　平和を祈る集い
日　時：8月11日（土・祝）13時から
場　所：カトリック大名町教会
内　容：本田哲郎神父の講演、他

＜北九州地区＞　北九州平和の集い
日　時：8月5日（日）12時開場
場　所：カトリック小倉教会
内　容：深堀勝人神父の話、子どもの広場、他

時の話題

平和の原点

私は、先日沖縄に行く機会に恵まれた。沖縄には第二次世界大戦において日本本土への侵攻を遅らせるための捨て石とされ、多くの住民が巻き込まれ、自決に追い込まれた歴史があり、今も小さな県土に日本全体の七割もの基地を抱えさせられている。中には語り継ぐのも苦しくなる、想像を絶する歴史もあるが沖縄の人達はそれぞれが自分なりにこの歴史と向き合い、学びつつ、不確かな記憶で終わらせないよう、さまざまな形で後世に語り継いでいる。今を生きる私たちに苦難の歴史を生きた言葉で伝え続けている。

ある司祭は「教会には二つの姿がある。ブドウの木のように地に根を下ろし成長する姿と遊牧民のように外へと出ていく姿だ」と言っている。これは私たちが平和を伝えることにも同じことが言える。ただ声高に「平和を実現しよう」と叫んでもそれは聞く人の心には届かず、いつかは風化して消えていく儚いものとなるだろう。しかし、私たちが自分の平和への思いを日々の生活を通して成長させ、そのうえで外に出ていく、伝えていくのであれば、私たちの言葉は生きた言葉として周囲の人の心へと届き、やがて大きな実りをもたらすのである。

マザーテレサは「愛は家庭からはじまる」と言っている。この「家庭」を「私たちにとって最も身近な共同体」ととらえるならば、誰にでも「家庭」はある。そして愛だけでなく、平和の出発点もその「家庭」にある。あなたの心と「家庭」に真の平和はあるだろうか。

福岡コレジオ生
池田 裕輝（長崎教区）

「教区の日」2018
11月23日はカテドラルへ！

「一つの点も、集まれば線となり、面となり、形あるものとなっていきます。それはキリストの姿に似たものとなって、教会がキリストの証の姿となっていくことでしょう…教区の日が、教区民が互いを励まし、力づける機会となることを願っています。どうぞ皆さん、教区の日に集いましょう。『み国が来ますように！』と『教区の日』実行委員会は呼びかける。

◇　◇　◇

【テーマ】「神のいつくしみをさらに生き、広めよう！」
【日時】11月23日（金・祝）10時15分～15時頃
【場所】カテドラル大名町教会
【内容】講話・活動報告・感謝ミサ、講話①宮原司教「着座10周年の振り返りと展望、教区創立100周年へ」、講話②フランコ神父「ミサ・秘跡から見る神の大いなるいつくしみ」※子どもの部は別プログラム

天草・崎津教会を中心にした集落が世界遺産に②
信仰を生き抜いた潜伏キリシタンと今

渡辺 隆義 神父

6月30日、中東バーレーンで開催されたユネスコ第42回世界遺産委員会で、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録が正式に決定した。

天草3教会（崎津・大江・本渡）の主任司祭である渡辺隆義神父に、2回にわたり寄稿していただいた。

「崎津教会が世界遺産に登録されて、おめでとうございます」との言葉をいくつもいただきました。「ありがとうございます」と返事はしたものの、実は、世界文化遺産になるのは厳密には天草の〝崎津集落〟であって〝崎津教会〟という建物ではありません。とはいえ、崎津集落の景観が世界遺産なのではなく、江戸時代の禁教政策のもとでの崎津集落のキリシタン（キリスト者）たちの信仰生活に世界的な価値があると認められたのですから、今もキリシタンの心を生きる崎津教会共同体は世界遺産とも言えます。昭和9年に献堂された現在の崎津教会の祭壇部分は江戸時代には庄屋の役宅があった場所で、そこで毎年〝絵踏み〟が行われていました。また、教会のすぐ近くにある諏訪神社では潜伏キリシタンたちが「あんめんりゆす」と祈っていましたが、これはラテン語の「アーメン・デウス（アーメン神様）」が訛ったものだそうです。信仰のゆえに命を捧げた殉教者ではなく、社会の現実と妥協したり、抗ったりしながら信仰を生きた潜伏キリシタンに焦点があてられたことに感慨を覚えます。

これからの私たちの役割。それは日本各地で〝踏み絵〟を踏んだ人々の心の痛み、悲しみに思いをはせ、このような悲劇が二度と起こらないように、教会を訪れる人に「信仰の自由」、「宗教間の対話の促進と家庭や世界の平和」の為に祈る時と空間を提供することではないかと思います。

みちくさ

世間ではお盆の月。カトリックでは聖母の被昇天のお祝いが中旬に行われる。この頃になると故郷が恋しくなる。幼少時代には、お盆の二日前から夕方になると、小さな提灯を下げて大通りを練り歩いた。死者の来る通を照らしてあげるという意味だったのか、田舎の風習にカトリック信者も馴染んでいた。そして、信者は8月15日の朝、聖母の被昇天ミサに与り、聖体行列をして大通りを練り歩き、大漁旗で飾られた漁船に乗り込んで湾内を一周し、教会に戻って聖体賛美式に与かる。昼過ぎには、信者、未洗者問わず、墓地に行き、祈り、明るい中で花火をする。そして家に戻ってきたら、塩でお清めをする。それからご馳走をいただく。これが今は世界遺産となった崎津集落での習わしであった▼父親の幼少時代はまた違っていたらしい。時は戦時中で、キリスト信者は「耶蘇教が！」といっていじめられていたらしい。小学校では一緒に机を並べても、一触即発の危険があったとか。それでも信者は信者であることに誇りをもって、ミサに与り、朝晩の祈りは家族みんなで声張り上げてしていたということ。神社の鳥居はくぐりたくなかったし、学童みんなで手を合わせて参拝する時には神のゆるしをこい願ったと話していた▼今の子ども達には信仰生活に関する思い出はあるのだろうか。教会学校もミサにも来ない。祈りもしない。そんな現状が続いていては、後悔することは目に見えている。「気づき」を与えて導こう。自分の信仰をしっかりと保てるように、みんなで育てていこう。（S）

教区宣教委員会エキュメニズム部
「救世軍」について学ぶ

6月24日（日）、大名町教会にて、エキュメニズム部主催「救世軍について」の勉強会が開催された。カトリック、救世軍の双方から約30人が参加。講師は英国救世軍万国士官学校を卒業され、救世軍日本司令官を務められた吉田眞師が務めた。

社会鍋で知られる救世軍はプロテスタント教会の一派で「聖書を基盤とし、三位一体の神を信じ、礼拝し、キリストの福音の伝達を強調しているグループ」（「救世軍」公式ホームページ http://www.salvationarmy.or.jp/ より）だ。

講演では救世軍の誕生、特徴、先駆性、組織、活動…等について明解に紹介された。救世軍活動の根本には、象徴的な3つのMがある。①Message（メッセージ＝聖書を基盤とし言葉と品性を通して）。②Ministry（働き＝神の愛に動かされて）。③Mission（使命＝分け隔てなくすべての人々のニーズに応える）。そして特に、キリストの福音を聞く権利をもっている者として、泥酔者、貧困者、売春婦、犯罪人…を大切にし、分け隔てなく、身体的、社会的、精神的、霊的な全人的救いが得られるように尽力すること。

講演を通して、救世軍の爽やかな寛さを感じた。

終了後、救世軍参加者から、「私にとって、新たな深い学びの時となりました」との謝辞を受けた。カトリックの信者からは「救世軍の神の愛に動機づけられた力強い働きに敬服しました」との声が聞かれた。

召命を共に祈る会　合同黙想会
司祭職へのあゆみ、喜びと苦しみ

6月25日（月）～26日（火）、福岡黙想の家においてキム・ジョングン司祭（天草3教会協働）の指導のもと、福岡・北九州・熊本地区合同の召命を共に祈る会の黙想会が行われた。

テーマは「司祭職へのあゆみ、喜びと苦しみ」。キム神父は10歳の頃、教会のミサにあずかり、司祭の姿を見て憧れ、司祭になりたいと思われたそうだ。しかし、その道筋は難しく、色々の困難の中、時をかけ日本に来られ、また、日本語の難しさや新たな悩みの中で試練を受けつつも、その苦しみの中で喜びを見い出し、神への感謝の祈りに心がけ、いつも喜びの心を忘れず歩んでこられたことが語られた。参加者もこの話しを聞き、神に感謝した。「喜びの心で仕える」との思いは新鮮で驚きだと感想を述べる者もいた。終始、とてもなごやかな雰囲気の中で、とても良い振り返りとなった。

私たちも召命を共に祈る会として、新たに気持ちを正し、神と共に歩むことができるよう、また、神学生一人ひとりが悩みながらも神と共に一歩ずつ前に進めるよう、心から願いながら黙想を終えた。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんな事にも感謝しなさい。」私たちの心に自由と平和がありますよう、祈りつつ…。

（報告＝小倉教会　桝本五月）

福岡コレジオ祭
励まし、祈り、支えてください

8人のコレジオ生と院長、お世話するシスター達

6月30日（土）、恒例のコレジオ祭が福岡コレジオ（カトリック長崎教会管区司祭志願院）にて開催された。

九州の各司教及び神学生養成担当者が集い、会議は神学生が大神学院に進学するにあたり、コレジオでの4年間をどのように養成するかが主な焦点となった。特に大神学院進学前の初期養成のプログラム、あるいは、短期大学や専門学校に通学するコレジオ生が最後の2年間をどのように過ごすか等が話し合われた。

夕方には8人の神学生全員の保護者や家族が集い、晩の祈りの後、食堂にて司教とともに会食が行われた。参加者全ての自己紹介及び神学生による余興などで和やかに話しがはずんだ。

翌7月1日（日）は、コレジオの保護者であるペトロ岐部と187の殉教者を記念し、浄水通教会にて、盛大にグレゴリオ聖歌によるミサが捧げられた。ミサの中で高見三明大司教は、神学生養成の大切さ、コレジオの存在意義について説明し、「ペトロ岐部が命をかけて司祭職を全うしたように、司祭職を目指す若者たちを励まし、祈ってほしい」と語った。大学4年生の神学生は3人であるが、今年最後の参加となるある神学生の親は、「まだまだ先は長いけれども、これほど皆さんに祈っていただき、その祈りに応えるように我が子を支え続けます」と語った。

佐賀教会教会学校巡礼キャンプ
世界遺産天草崎津集落で信仰の歴史を学ぶ

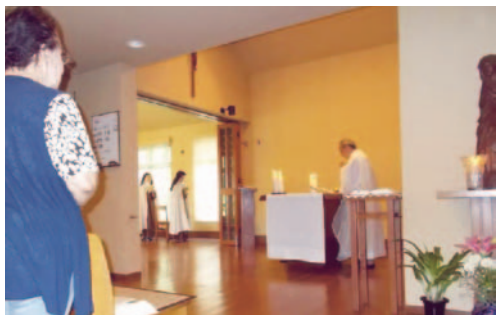
崎津教会での記念撮影

佐賀教会教会学校は、主任司祭の下町豊重神父のガイドのもと、毎年恒例の天草巡礼キャンプを7月15日（日）から16日(月)までの二日間行った。小学生、中学生、高校生11人の他に、佐賀に住むベトナムの青年5人も加わり、総勢27人で世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の「天草の崎津集落」の中心にある崎津教会を訪問した。

崎津教会では主任司祭の渡辺隆義神父と協働司祭キム・ジョングン神父と大勢の信徒の皆さんが温かく迎えてくれ、刺身やカレーのご馳走を振舞ってくれた。毎年参加している子どもたちもいて、崎津教会の神父方や信徒の方々と和やかな雰囲気のうちに食事を楽しむことができた。今回の巡礼キャンプでは崎津教会でのミサはもちろんのこと、大江教会、天草キリシタン館、崎津教会墓地訪問の他に、イルカウォッチング、反潜水型グラスボードでのサンゴ礁観察、白鶴浜海水浴場での海水浴、花火と、子どもたちも喜ぶイベントも多くあり、教会学校にふさわしい信仰と遊びが濃縮され、大人も楽しめるキャンプとなった。ある子どもは、「天草の信仰の歴史に触れることができて良かったです」と話した。

（報告＝佐賀教会 秋吉淳一）

カルメル山の聖母の祝日ミサ
受け継がれる神との親しさ



福岡カルメル会修道院でのミサ

7月16日（月・祝）、福岡市西区今宿上ノ原の福岡カルメル会修道院にて、カルメル山の聖母の祝日ミサ捧げられた。司式は、カルメル会司祭九里彰師（宇治修道院）。シスター方と共に、カルメル在世会会員や教区の信徒も祝日ミサに与った。閉祭にはフロス・カルメリ（カルメルの花）が歌われ、カルメル山の聖母への祈りが捧げられた。

エリヤがバアルの預言者と戦ったパレスチナのカルメル山は、カルメル会発祥の地である。12世紀末には、何人かの隠遁者が居と定め、聖母マリアを保護者として観想生活を送り、カルメル山の聖母マリアの兄弟たちと呼ばれていた。以来、16世紀アビラのテレジアを経て、今日までカルメル会に受け継がれているのは神との親しさである。

福岡カルメル会は今宿上ノ原へ移転して25年、山の緑も深くなった。今年は祝日前日から、酷暑にも関わらず西新教会の方々の草刈りのご奉仕が続いていた。

（報告＝西新教会 木本敬子）

「教区の日」報告書より④　佐賀地区
鳥栖教会　信徒が一丸となって

鳥栖教会の主任司祭は小郡教会を兼任しているため、常駐できない状況にあるが、多忙な主任司祭の指導を通して信徒が一丸となって活動してきた。

その中で、「教会子ども会」について言えば、スタッフとして主任司祭・神学生・保護者（信徒）が昨年より関わっており、今年は「イエスのみ言葉」を主に考えていくようにしている。また、7月には「地区編成」も行い、負担が偏ることのないように配慮されている。8月にはバス遠足で浄水通教会、司教館を訪れたり、動物園に行ったりして「ワンダフルサマー」を楽しんだ。また、地区宣教司牧評議会主催の「地区サマーキャンプ」には積極的に参加し、子ども達はよい思い出を作ることができた。更に、「侍者会」について言えば、多い時には12人もの子ども達が活躍する。小郡教会に侍者がいない時には鳥栖教会の子ども達が替わって行ったりするなど、教会同志のつながりにも一役かっている。「高齢者化への対応」についてであるが、教会に行きたいが行けない人やミサに与れない人のことを考慮することや聖堂が2階にあるために エレベーターの設置も検討されている。2017年度の「教区の日」には、子どもの部で子どもの人形劇『信仰の遺産』を披露することになり、当日に向けての練習で一層活気づいている。これからも教会全体に目を注ぎ、神のみ心の喜びのために奮起したい。

訃報

パウロ　牛尾　幸生神父（イエズス会）

6月21日、肺腺癌のため広島大学病院で帰天。享年66、修道生活41年。牛尾神父は司祭叙階後まもなくの1988年に福岡・泰星学園（現上智福岡中学高等学校）に赴任して、主に数学を担当、1992年に広島に異動。

『家庭の友』（サンパウロ発行）に「希望の彼方へ」と題して記事を執筆。2018年8月号が遺稿となった。

神父様の永遠の安息をお祈りいたします。

【月例黙想会】
期　日：①9月8日(土)～9日(日)　②10月13日(土)～14日(日)
　　8月は休会
指導者：染野治雄 神父(御受難修道会)
費　用：8,700円(税込・指導料含む)

◆黙想会の申込締切は開催の一週間前まで　◆詳細はお問合せください

カトリック御受難修道会・福岡黙想の家
811-4155 宗像市名残1056-1 Tel 0940-32-3222(9:30～16:30)
Fax 0940-32-3385 E-メール f-mokuso@fmokusou.com
PRAYER GROVE MUNAKATA

ミサ用ワイン

ヴィノ　デ　ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命　お問い合せは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ　青木　彰
〒815-0082　福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718　Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
ＴＥＬ 092－526－5656
〒810-0016
福岡市中央区平和３丁目1-5

未曾有の災害再び　九州北部豪雨被災地支援
支援は流石と泥土の「闘い」

豪雨被災地での作業にはスコップ、一輪車が必需品

昨年7月5日、6日にかけて福岡県朝倉市、東峰村、大分県の日田市を中心に「九州北部豪雨」が起こった。10日ほどたった7月半ば、熊本地震の個人支援グループ「支援のわ」からの要請で朝倉市杷木町の支援に回った。この日の精兵⁉は4人で、平均年齢は73歳ほど。暑さの中で、一輪車による泥土運び、スコップによる泥土の掘り起こし、溝掃除などの作業。翌月はテレビでもその惨状を放映された杷木地区の住宅街の一画で、家内に入った泥を掻き出す作業であった。家々にはここまで水が入ったのだろうと思わせる黄土色の線がくっきり。近くには川があり、この川が氾濫して大きな被害になったとか。

現在の活動の中心地は、秋月から10分、「あまぎ水の文化村」からさらに10分ほど入った黒川地区。幹線道路から一歩脇道にそれると今も一般車は通行禁止の道が幾筋もある。道路は流され、流木が道をふさいだ状態でボランティアも入れる状態になかったそうだ。昨年10月にやっとこの地区に入った時には流木こそ取り除かれていたが、道の一部は仮装道路。迫り来る岩肌にはかつて道路だったと思わせるアスファルトがまだ残っている。片側に迫る山には倒木、水に洗い流された赤土がむき出しのままであった。黒川地区での初仕事は梨園の土運び。山から流れ込んだ泥土を取り除かないと、梨園そのものが死んでしまうというので、その流土を掘り起こし、重機の動ける場所まで運ぶのである。水を含んだ粘土質の流土は重く、作業はまさに「闘い」であった。

そして起こった今年の同じ日の豪雨による災害。今後、何処でどのような活動ができるか分からないが、老骨に鞭打って頑張りたい。

（報告＝水巻教会　山口一隆）

カトリック労働者運動　北九州関門地区練成会
若者の「働き方」に耳を傾ける

若者の分かち合いに耳を傾けるACOのメンバー達

6月17日（日）から18日（月）、下関労働教育センター（山口県下関市）にてカトリック労働者運動（以下ＡＣＯ）北九州関門地区練成会が行われた。テーマは「青年の声を聴こう～若者の現実は」。

ＡＣＯ（アセオ）は「働く者」として集い、福音的価値観に満ちた「人間が大切にされる、新しい社会の建設」を目指して歩む運動だ。会員は月1回の集い、年1回の練成会や黙想会を通して、自身の生活の見直しを行い、現実への理解を深め、社会の中で福音の証となる希望と勇気、力を得ている。

ＡＣＯ北九州関門地区（代表＝岩本ナセ）の会員の多くは平均年齢70歳超のリタイア組。「私たちは青年の言葉を持っていない！」との反省から、「働いている青年」の働き方、生き方、働く現場のことを聞こうと、今回の練成会が企画された。

福岡と下関の青年9人が、それぞれの歩みと職歴、現在の「働き方」、雇用制度や労働環境について思うこと等を分かち合った。

「裁量労働制で雇用されたが、周囲との調和を大切にする日本文化ではうまく機能しないように感じた。残業も多かった」「働くことは好きだが、人間関係に問題を感じる」「以前はブラックな職場だった。現在は少人数で、働き方も自分で考えて計画が立てられるので楽しい」「現在はパート4年目。非正規社員で成り立っている職場。正社員登用を目指して勉強している」「夢が叶い、介護業界で働いている。大変な部分もあるが、楽しんでいる。ただ、命をあずかる介護業界の給与の低さには疑問を感じる」等々。

離職・転職をした青年たちは、その理由に残業の多さや体調を崩したこと、不条理なノルマを挙げた。制度より社内文化、個人よりも企業利益が優先される労働環境の中で、キリストの福音を知っているからこそ深まる葛藤を抱える青年の姿もあった。

ＡＣＯ会員からは、年金制度や労働組合について問いかけがあった。青年たちの多くは年金制度や労働組合といった組織的保障が信用に値するものと感じていないようだった。

青年の声を聴いた会員は、「職場状況、社会状況が随分変化していることに気が付いた。現状を聞けて良かった」「今の社会の闇は、私たち大人が作ったように感じる。しかし、今日分かち合ってくれた青年たちの中に『光』があると信じたい」などと感想を述べた。

熊本・島崎教会で聖体行列
青空の下で神の救いの業を賛美

１２０年の伝統を持つ聖体行列

6月3日（日）、島崎教会では聖体の祭日のミサに引続き、青空の下、皆で歓びのうちに聖体行列をもって主の救いのみ業を賛美した。聖体行列は１２０年の伝統を持っている。今年は、この行列に市内各地より修道女、信徒約１５０人が参列し、教会の北側にあるマリアの宣教者フランシスコ修道院の聖堂までの約1キロを歩いた。（修道院の聖堂は、島崎小教区が創設されるまでの約70年の間、小教区の役割を果してきた。言わば島崎共同体の心の古里とも言える神の家である。）途中、修道院敷地内に現存している施設の一つである特別養護老人ホームの広場では、高齢者への聖体の祝福が盛大に行われた。聖体が高く顕示されると、子どもたちが撒く花びらが空に舞い、ヒラヒラと地に落ちて、辺り一面を色調豊かに彩った。その後、行列は修道院の聖堂に着き、最後に聖体賛美式が賛美と感謝のうちに捧げられた。この行列に参列した女性の信徒は、「島崎教会では年に一度、聖体の祭日に教会の外に出て大自然の下で、主の救いのみ業を皆で歓びのうちに讃美します。それで、この日は私たちにとって、とても大切な日となっているのです」と感想を述べた。

（報告＝島崎教会　髙木光行）

「若者、信仰、そして召命の識別」④
「おかえりなさい」を感じる教会

4回目の今回は実際に青年の声を紹介する。インタビューに協力してくれたのは20代の女子学生。

◆日常の友達関係ってどんな感じ？

―　バイト先や高校時代の友達と会うことが多いです。連絡はLINEで取りあって、会ったら将来の話とかもします。時と共に変わっていく人間関係に不安を感じることもあります。

◆教会の青年会の人間関係は？

―　一緒に何かに取り組む先輩・後輩のような関係です。裏切られることはない…という安心感があります。

◆教会はどんな場所？

―　高校生の時、「行きたい…でも、行けない」場所になりました。心身の調子を崩して、ミサの時間に行けなくて…でも、仲間に会いたいから教会に行ったら、大人の方から「ミサに来ないのに…」という雰囲気を感じてしまって…。

◆その後、変化はあった？

―　ワールドユースデー（WYD）への参加がきっかけで変わりました。WYD大会中のゆるしの秘跡で「イエス様の幸せは、あなたの幸せだよ」と言われ、償いとして「イエス様とお話しをする」ようにと指示されました。その時の「イエス様とのお話」の時間がとても素敵な時間だったんです。今は、ミサの聖体拝領の後に「イエス様とのお話」の時間を取るようにしているので、ミサも好きです。

◆日常生活の中でそういった祈りの時間は取る？

―　うーん…（苦笑い）、しないですね。

◆今、嬉しいことは？

―　教会の中高生キャンプの準備をしていて、仲間と共に準備できていることが嬉しいです。そして、参加者の申し込みが増えてきているのも嬉しい。

◆不安なことは？

―　学校を卒業した後、これからどうするのかが不安。自立できるのかなー…なども考えてしまいます。

◆教会はどんな場所であってほしい？

―　帰ってこられる場所、単純に「おかえりなさい」と言ってもらいたいです。「何しとったん」って言ってほしくないなー。

◆今の教会は「おかえりなさい」の雰囲気がある？

―　昔から知っている人のいる私にとってはそういう場所になっているけど、新しい人にとってはそうでないかも…。

BOOK 読みは専科

☆おさなごのように～天の父に甘える七十七の祈り
晴佐久昌英 著

特定の宗教を超えた、まことの親である「天の父」に親しんでもらいたいという著者の願いから生まれた生活の中の祈りの本。

「まことの親のふところに抱かれ、温かなぬくもりを感じ、優しい言葉に包まれて、親子がひとつになる幸いな交わりこそが、『祈り』です」（「はじめに」より）。そのような交わりを日々の様々な状況で体験できる祈りが収められている。

女子パウロ会発行
価格１２００円＋税

◇　◇　◇

☆そのとき風がふいた－ド・ロ神父となかまたちの冒険
中濱敬司 監修
ニューロック木綿子 漫画

プティジャン神父と潜伏キリシタンとの歴史的出会いを皮切りに、宣教師マルク・マリー・ド・ロの活躍と、彼と共に献身的に働いた人びとの歩みを漫画でたどる。長崎旅行の事前学習にも最適。ド・ロ神父来日１５０年記念出版。

オリエンス宗教研究所発行
税込価格１４０４円

不動産全般／売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
㈱ジャパン・スマイルか
代表取締役　マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092－761－8800
http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。
費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山7-91　TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社　代表：エリザベト熊谷

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事　・ＲＣ工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ　森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎（092）811－7265

本との出会い　人との出会い　神との出会い
セント・ポール FUKUOKA
キリスト教書籍・信心用具・ビデオ・DVD・CD
福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会１Ｆ
平日／AM１０時３０分～PM５時
日曜／AM１１時～PM２時（定休日 水曜・祝日）
TEL 092(741)4588　FAX 092(741)4601
URL:http://www.pauline.or.jp

年間目標　**神のいつくしみをさらに生き、広めよう！**

カテドラルでのゆるしの秘跡

日　時：8月4日、11日、9月1日、15日、
　　10月6日、20日　　10時〜11時45分
場　所：カトリック大名町教会小聖堂

福岡黙想の家ご案内　8・9月

8月2日(木)〜 3日(金)　カトリック学校中堅教職員研修
4日(土)　ロザリオの会
4日(土)〜11日(土)　個人黙想会
7日(火)〜16日(木)　純心聖母会
16日(木)〜17日(金)　個人黙想会
20日(月)　北九州幼稚園教員研修
9月1日(土)　ロザリオの会
2日(日)〜 7日(金)　オブレート会
8日(土)〜 9日(日)　月例黙想会(募集中)
9日(日)〜15日(土)　サレジオ会
15日(土)〜16日(日)　聖マリア在俗会
16日(日)〜17日(月)　九州アシュラム

※お電話またはメールでお問合せください。
＊宗像市名残1056-1　☎0940・32・3222　FAX 0940・32・3385
Email: f-mokuso@fmokuso.com

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：優れた祈りを手本にして
日　　時：9月13日(木) 10時〜15時　(8月は休み)
内　　容：幼いイエズス聖テレジアの祈り
指 導 者：ダニーロ・マルケット神父(聖ザベリオ宣教会)
問合わせ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
次　　回：10月11日(木)
☎0968・85・3100　FAX 0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7・E-mail shinmeizan@gmail.com

福岡地区納骨堂管理委員会より

和田墓地開放日と追悼ミサ
※8月の開放日　8月13日〜15日、10時〜15時
※8月15日　追悼ミサ・納骨式　14時から

教区信徒養成部主催　聖書講座

信仰生活を照らすために、マルコ福音書を中心に、読み、分かち合いましょう
テーマ：聖書と私たち〜生活の中でみことばを活かす
日　時：9月9日（日）14時〜16時　（隔月第2日曜日）
場　所：カトリック大名町教会　1階講堂
講　師：森山信三神父（福岡コレジオ院長）
参加費：100円　※旧新約聖書を持参のこと
問合せ：☎080・5246・1816畠山

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail:cdf-kouhou@nifty.com

案内板　会合と催し

■ゴチックは司教日程

9月のこよみ

1日(土)	西南学院大学コンサート
2日(日)	年間第22主日　被造物を大切にする世界祈願日
4日(火)	**司祭評議会・教区本部会議**
5日(水)	†H.ハンター(2010年 大江教会)
6日(木)	**常任司教委員会**　†D.ギル(2008年 手取教会)
7日(金)	**初金ミサ・サーリスの集い**
	†フランシスコX.牧山重光(2005年 門司港教会)
8日(土)	**カトリック幼児教育教職員養成研修**
	†K.デバイン(2009年 人吉教会)
	†フランシスコX.山田成章(2013年 茶山教会)
9日(日)	年間第23主日　**飯塚教会ミサ・起工式**
	「教区の日」実行委員会
10日(月)	†J.バーク(2000年 崎津教会)
11日(火)	†ステファノ百村等(2017年 聖パウロ修道会)
12日(水)	†A.セトアイン(2003年 泰星学園)
14日(金)	十字架賞賛
16日(日)	年間第24主日　**武雄・多久教会公式訪問**
22日(土)	**諸宗教対話部門シンポジウム**
23日(日)	年間第25主日　世界難民移住移動者の日(献金)
	†J.バイヨ(2004年 光丘教会)
24日(月)	**さいたま教区司教叙階式**
	†ヨゼフ深堀敏司教(2009年 高松教区長)
27日(木)	**福岡カトリック神学院会議**
30日(日)	年間第26主日
【10月】	
4日(木)	**常任司教委員会**
5日(金)	**初金ミサ・サーリスの集い**

8月のこよみ

2日(木)	**カトリック学校中堅教職員研修(〜3日)**
3日(金)	**初金ミサ・サーリスの集い**
5日(日)	年間第18主日 †ペトロ平田三郎司教(2007年)
	広島原爆犠牲者追悼ミサ
6日(月)	主の変容　日本カトリック平和旬間(〜15日)
	カトリック学校中堅教職員研修OG・OB会
7日(火)	**小教区会計担当者研修**
	†J.P.ラベル(2004年 大神学院)
8日(水)	聖ドミニコ司祭　**責任役員会　小神学生練成会**
9日(木)	**長崎原爆犠牲者追悼ミサ**
10日(金)	**新上五島町・世界遺産登録記念行事(頭ヶ島教会)**
12日(日)	年間第19主日　FYCC(〜14日・二日市教会)
13日(月)	**FYCC発表会**　†B.クレアリー(2005年)
15日(水)	聖母の被昇天　**和田墓地ミサ**
17日(金)	**(宗法)幼児教育事業所副園長・主任・副主任研修(〜18日)**
18日(土)	**西南学院大学コンサート**
	†ミカエル堤要吉(2002年 浄水通教会)
19日(日)	年間第20主日　**フライブルク大聖堂合唱団ミサ(大名町教会)**
20日(月)	†D.グリフィン(2001年 玉名教会)
	†L.デシャンプ(2001年 八王子教会)
	†ユスティノ三村邦明(2012年 久留米教会)
25日(土)	**聖アウグスチヌス記念ミサ(笹丘教会)**
	†フランシスコX.堤敏雄(2011年 飯塚教会)
26日(日)	年間第21主日
27日(月)	**福岡地区カトリック女性の会・モニカ祭**
30日(木)	†J.ガイヤール(2007年 水巻教会)

被造物を大切にする世界祈願日　9月 2日（日）
世界難民移住移動者の日（献金）9月23日（日）

日本カトリック平和旬間　8月6日（月）〜15日（水）
◇心を合わせ祈り、日々の歩みを振り返る機会といたしましょう◇

◆福岡

■聖ドミニコ信徒会集会〔日時〕8月4・18日／9月1日(土)15時〜17時〔場所〕箱崎教会〔内容〕分かち合い〔指導〕アントニオ李神父(ドミニコ会)〔問合せ先〕☎092・651・3867箱崎教会

■いつくしみ深い御父を讃える集い〔日時〕8月7日(火)11時〜13時〔場所〕笹丘教会〔内容〕ミサと祈り〔問合せ先〕☎092・821・6349森※ロザリオをご持参ください。軽食あり。

■震災のための祈りのリレー〔日時〕8月11日(土)ミサ7時から・夕の祈り(テゼの祈り)17時から〔場所〕大名町教会小聖堂〔問合せ先〕☎070・2820・9613Br.阿部(パウロ会)

■レジオマリエ福岡クリア〔日時〕8月12日／9月9日(日)14時〜16時〔場所〕高宮教会〔指導〕D・ジョンソン神父(カプチン・フランシスコ修道会／高宮教会主任)〔問合せ〕☎090・9654・9969日吉

■ドイツ フライブルク大聖堂少年合唱団ミサで聖歌〔日時〕8月19日(日)9時半から〔場所〕カテドラル大名町教会〔曲目〕グレゴリオ聖歌「新しい歌を主に歌え」／R.R.クライン「ミサ曲」／J.P.ダ・パレストリーナ「あなたはペトロ」他

■聖書に集う会〔日時〕8月22日(水)14時〜15時半〔場所〕サンパウロ福岡宣教センター3階ホール〔問合せ先〕☎070・2820・9613Br.阿部(パウロ会)

■心の問題を楽しむ会〔日時〕8月25日(土)18時〜20時〔場所〕福岡黙想の家・カトリック案内所〔テーマ〕気分障害〔アドバイザー〕稲津佳世子氏(精神科心療内科医)〔問合せ先〕☎0940・33・2731吉永

■ラスキン黙想と祈りの集い(テゼの祈り)〔日時〕8月31日(金)19時45分から〔場所〕大名町教会小聖堂〔問合せ先〕☎070・2820・9613Br.阿部(パウロ会)

■カルメル在世会集会〔日時〕9月10日(月)10時半から〔場所〕福岡女子カルメル会修道院・テレサの家〔内容〕ミサ・講話「三位一体の聖エリザベット」〔指導〕九里彰神父(カルメル会)〔問合せ先〕☎095・828・2350鵜池

■講演会「熊本、西原村の復活を願って」〔日時〕9月16日(日)14時〜16時〔場所〕大名町教会1階講堂〔講師〕加藤義明氏（NPO法人アソ代表）〔内容〕熊本地震被災地支援・西原村からの報告※当日、新米予約受け付けます〔問合せ先〕☎090・6775・4268青木

■グレゴリオ聖歌を歌う会〔日時〕9月18日(火)11時から〔場所〕聖クララ寮〔内容〕グレゴリオ聖歌ミサとベネディクション〔問合せ先〕☎096・380・5686堺

■福岡召命を共に祈る会〔日時〕9月18日(火)13時半から〔場所〕大名町教会〔内容〕ロザリオの祈りと分かち合い〔問合せ先〕☎092・921・4532山口

■福岡ホスピスの会・がん哲学外来「ぬくみカフェ」〔日時〕9月22日（土）14時〜16時半〔場所〕サンパウロ福岡宣教センター3階〔ゲスト〕ピアッツィーニ神父（聖マリア病院チャプレン）〔参加費〕500円〔問合せ先〕☎090・1162・6395柴田

■聖パウロ協力者会黙想会〔日時〕9月30日(日)13時半〜17時〔場所〕聖パウロ修道会福岡修道院〔指導〕井手口満修道士（聖パウロ修道会）〔問合せ先〕☎092・541・3730松山

■美野島司牧センター
降りて来てくださる神様と共に働きましょう◆ホームレスの方に手作りのお昼ごはん毎週火曜日10時※8月14日は休み◆ホームレス支援炊き出し・夜回り第1金曜日　調理15時　夜回り20時◆路上からアパートに入居した方を訪問第3土曜日　13時〔問合せ先〕☎092・431・1419M・コース神父

■鹿児島谷山聖アルフォンソ合唱団ミサ曲奉献〔日時〕10月7日(日)9時半から〔場所〕カテドラル大名町教会〔曲目〕W.A.モーツァルト戴冠ミサ曲他

◆北九州

■小倉祈りの集い〔日時〕8月24日／9月28日(金)13時半〜15時〔場所〕小倉教会信徒会館2階〔内容〕みことばを味わう・賛美と感謝の祈り〔問合せ先〕☎090・3985・5209松田

■北九州召命を共に祈る会〔日時〕9月13日(木)14時から〔場所〕小倉教会〔内容〕ミサと茶話会〔問合せ先〕☎0949・24・9905藤井

■中村信哉神父　司祭叙階25年ミサ〔日時〕9月24日（月）10時から〔場所〕小倉教会〔問合せ先〕☎093・921・0093小倉教会

◆筑後

■松浦悟郎司教ミサ・講演会〔日時〕9月2日(日)10時〜13時〔場所〕大牟田教会〔テーマ〕憲法九条の精神を守りぬくために〜平和を求めて、これを追い求めよ(詩編34・15)〔問合せ先〕☎090・7453・5876蓮尾

司祭役務異動

◆サトルニノ・オチョア師(イエズス会福岡修道院)教区カトリック学校連盟担当司祭

大名町教会より感謝

福岡教区信徒の皆様からの『4月15日カテドラル献金』に感謝いたします。（大名町教会信徒一同）

セントポールFUKUOKA営業時間変更のお知らせ

8月1日から開店時間が変更になります。平日10時半〜17時、日曜11時〜14時。定休日＝水曜・祝日※8月13日(月)〜18日(土)は休み。

編集後記

暑さに負けず、がんばろう！

9月号は休刊です。

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール
薬院・油山・野芥・小田部・今宿
馬出・南福岡・大野城・飯塚
市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店　福岡メモリード 検索
0120-45-1616

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
医科・歯科臨床研修指定病院
地域医療支援病院
救命救急センター
総合周産期医療センター
がん診療連携拠点病院
地域災害拠点病院
一緒に働きませんか？
＝募集＝
医師・看護師・医療技術職
〒830-8543
福岡県久留米市津福本町422
TEL0942-35-3322(代表)
FAX0942-34-3115
http://www.st-mary-med.or.jp

2018年秋 聖霊による信仰生活刷新セミナー
日時：9月3日〜10月22日　毎週月曜日
　10時半〜12時半（受付10時から）
場所：カトリック大名町教会　1階講堂
テーマ：神様が約束されたいのち
参加費：自由献金（初回のみテキスト代600円）
主催：聖霊による刷新福岡祈りの集い
問合せ：☎090・9722・3708　蓮尾

サンパウロ
福岡宣教センター
レジナ アポストロールム
営業時間:
平日 10:00〜18:00
定休日：日曜日、祝祭日
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26
tel. 092-721-2032 ／fax. 092-739-3930
E-mail: fukuoka@sanpaolo.or.jp